

放送大学通信

on air

オン・エア

no. 70

発行日 平成15年6月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

CONTENTS

平成14年度放送大学卒業式	1
退任のあいさつ 教授 近藤喜代太郎 「葉の花の会」について	7
就任のあいさつ 教授 鈴木基之 / 助教授 宮本 徹 / 所長 塚越規弘 / 所長 押川元重	8
放送大学学生実態調査(02) 教授 岩永雅也	10
平成15年度学部開設科目紹介	12
ゲノム生物学(03) 教授 岩槻邦男 / 客員教授 近藤喜代太郎 中小企業の挑戦(03) 教授 神代和欣 / 教授 中島尚正 近代日本における外国文学の受容(03) 教授 山内久明 / 大手前大学副学長 川本皓嗣 身体福祉論(03) 教授 宮下充正 / 助教授 白井永男	14
研究室だより 教授 伊藤貞夫 / 教授 林 敏彦	15
学習センターの整備 鹿児島学習センターの移転 歴史と自然が調和した鹿児島の文化ゾーンに	15
岩村教授日本学士院賞受賞 教務のお知らせ	16

平成14年度 放送大学卒業式



平成15年3月16日、平成14年度卒業式が東京ベイN.K.ホールにおいて挙行されました。当日は、文部科学省、総務省、NHKなどから多数の来賓を迎え、およそ1,200名の卒業生が出席しました。学歌合唱、来賓紹介の後、平成15年3月卒業生に対して卒業証書・学位記の授与が行われ、学長告辞、文部科学大臣及び総務大臣からの祝辞に引き続き、卒業生総代の答辞で閉式となりました。学長告辞等の内容については次のとおりです。

学長告辞

放送大学長 丹保 憲仁

今日ここにめでたく卒業を迎えられた、4,265人の平成14年度卒業生の皆様に、放送大学を代表して、お慶びを申し上げます。

今年もまた、公務ご多忙の中、

遠山敦子文部科学大臣のご臨席を頂くことができました。心より御礼申し上げます。

卒業に至るまで、さまざまな困難を乗り越えて、がんばり切るところを学んだことが、おそらく皆さんがこの大学で学士となられた一番の価値であると思います。自らの持続する意思と努力で階段を一つ登られたことをお慶び申し上げ



げます。

この平成14年度の第1学期には、94歳の小林金之助さんが本学を卒業され、本学最年長の学士号取得者となりました。戦前に尋常高等小学校（現在の新制中学の前身）を卒業してすぐ洋服屋に奉公され、職人として一本立ちになるやいなや、高級洋服職人としての必要を感じられて仕事の傍ら英語学校に通い生涯学習を始められたとのことです。その後太平洋戦争が始まる直前までシンガポールで洋服店を開業され、帰国後戦災に遭い辛苦をなめられても挫けず、奥様を亡くされた後も放送大学で学び続け、二度の入学を経て17年の勉学の末に、長年の願いである大学卒業に至ったものです。「大学習心」と「たゆみ無い努力」に、ただただ敬意を捧げるものです。

しかしながら、その学業成就の陰に、この放送大学の卒業生で、現在東京大学の博士課程で教育学を学んでいる、家庭を持つ女性の方が、数十歳も年長の仲間の小林さんのために、修学相談を始め、継続して学習支援を続けられた大変なご尽力があります。放送大学での学びの神髄がここにあることに、心を打たれております。誠に尊いことです。

このところ、日本に元気がないことが国内外の論議の種になっております。世界のいくつかの地域はまだ19世紀に始まる近代成長時代の夢を追っています。アメリカン・グロバリズムと近頃の大成長を遂げている隣国中国との狭間で日本はいささか苦勞しております。

この新世紀を通じて、なお数10年も近代型の競争的成長を世界は続けるわけにはいかないと私は思っております。20世紀の百年で世界人口は15億人から60億人と4倍になりました。その経済成長は17倍であったといわれています。食料生産や都市・産業のための水需要量は10倍になりました。エネルギー使用量も10倍になりました。経済成長のための一人当たりの資源消費は、2倍

を超え3倍に達しようとしています。言葉を換えて言えば、生物としての人間の効率は半分以下に落ちたということです。この水の惑星（地球）は、22世紀初頭には100億人程の飽和人口に到達すると予測されています。現在のよう化石エネルギーと大量の水の消費を続けながら、先進国が到達した消費レベルですべてを養う余裕はないと思います。

日本人の内8,000万人が過剰人口であるといったら、なにを口走っているのかと正気を疑われかねません。少し説明すると、徳川時代の250年あまり、日本は鎖国をして、三つの島をとことんまで開発し、成熟した日本型文明を作り出しました。道路網も発達し、手形の決済システムも考え出され、大量のお伊勢参りの人々が現金を持たずに旅ができたといえます。しかし、太陽エネルギーベースの米（こめ）社会（今でいうグリーン文明）は、人口が3,000万に至る前に飽和に達し、幕末には疫病や飢饉などで100万をはるかに超える人を失い、グリーン文明システムとしての限界に至りました。

西欧列強を手本にして、日本の近代化が進みました。1930年代に日本本土の人口は7,000万人近くに達し、四つの島ではこれを支えきれず、ついには軍勢力を伴う大陸への膨張・侵略、東南アジアへの侵攻に至りました。敗戦により、また本土四島に閉じこもることとなった日本人は、その勤勉と高い教育水準で奇跡の復興と経済大発展を遂げGNP世界第二位の経済大国となりました。人口も21世紀の始め1億2,500万人となり、人口推計曲線の最大値を示し、以後は急速に減少するとされています。21世紀末にはまた、私が生まれた1930年代初期と同じ7,000万人弱に戻ると予想されています。

考えてみますと、7,000万人を食わせることが出来ず、長い戦争に突入した歴史の原因は、今もあるわけです。この四島の自然でグリーンに自活できる人口は、徳川

250年余の歴史的な大実験結果に、北海道を加え、科学の進歩を加味しても、我が国土上では4,000万人位が限度ではないかと思えます。それを超える人口は、国民の知恵の産物を世界に輸出した稼ぎで、他国から食料・エネルギーや様々な資源を買い、廃棄物を国土にため込んで生きているのではないかと思います。それにも拘わらず近い過去において、我が国は突出した高い個人所得（消費水準）と安定な社会を第二次大戦後の50年足らずの短期間に作り上げてきました。20世紀の奇跡であります。それをこの国土の固有の能力と安易に考えてはいないでしょうか。

いままで日本人を潤沢に食べさせてきた活動の大きな部分は、東京・大阪を核とする太平洋沿岸メガロポリスの産業社会にあると思えます。メガロポリスと他の日本の地域は働き具合が少し異なるように思えます。東京等の力や判断だけで日本のことが決まるのは困りますが、東京等に特段の配慮がないのも困ります。東京は食料自給率1%のシンガポール・香港型の特異な国際型都市であろうと思えます。本当の意味での特区を考えるべき空間であろうと思えます。戦前の貧しい日本で、帝国海軍は特区であったと思えます。力仕事だけでは食えないのも連合艦隊の巨砲と似ているように思えます。時代の先を読む賢い目とたゆまぬ努力があれば、世界最大の太平洋沿岸メガロポリスの活力と日本の伝統をうまく繋いだ、新しい次の時代の日本を創ることができると思えます。しっかりとした基礎教育と高度の自発的学習を組み合わせることによって初めてそれが可能になると思えます。

百年仕事であり、賢く使えば人口の減少が日本の積年の無理を和らげてくれるにちがいません。安定した社会と尊敬されうる住民を持つ国は、無理押しの大国ではないように思います。近代型の成長を是とする大国に挟まれて生き続けることは、明治維新より

はるかに難しいことですが、なんとしても努力し続けねばなりません。次の文明の創始者になれるか、はたまた衰退の一途を辿るかは、現在の日本人の覚悟と努力次第であると考えます。

歴史を振り返ってみれば、真の意味の教育こそが新しい時代を創る基礎でありました。近代を追った日本は、ヨーロッパ近代の精神と科学を学校教育で学んできました。しかし、これから日本に求められることは、世界に先駆けて西欧型近代をどのようにして卒業するかということであろうと思えます。

この大学の教養学についても、近代西欧の知の系譜を獲得・伝承し洗練するのみでは十分でなく、時間軸としての歴史と空間軸としての地域社会が大きな歪みを持って地球上に展開していることを、地球環境容量（carrying capacity）の絶対的制約を常に考えた上で学び、自己の存在位置を決めるための学習を展開する必要があると思えます。在来大学の細分化された学部・学科システムの上での一度限りの教育のみで、生涯にわたり活動できるような人生はもうほとんどありません。あらゆる人々が、生涯にわたり体系的な学習の繰り返しを進めることで初めて、いま迎えている困難を超え、新時代の創造を可能にできると思えます。本学が率先して取り組んできた課題です。

いつでも、どこでも、だれでも学べるこの大学のような仕組みが、これからの高等教育システムの中で大きな割合を占めていかねばならないと思えます。皆さんは、新しい世界を求める新高等教育のバイオニア的学習者であることを誇りに、これからも学び続けてください。

日本人が、近代を超える新しい文明への路を切り開いた人間達であったと、未来の人類史に書かれたらどんなに素晴らしいことでしょうか。

皆様のご健康とさらなる勉学の継続を祈念して、卒業式の告辞といたします。

文部科学大臣祝辞

文部科学大臣 遠山 敦子



本日、めでたく卒業の日を迎えられた皆様、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

本年度、放送大学を卒業される皆様は、幅広い年代にわたり、様々な職業や経歴をお持ちの方々と伺っております。

放送大学は、入学試験がなく、誰もが入ることができますが、卒業するのは極めて難しい大学と言われております。

皆様は、学びたいという強い意志と忍耐力、並々ならぬ努力によって、多くの困難を克服し、本日の卒業式を迎えられたものと思います。学習への高い志を持つ皆様は、生涯学習社会の構築を目指す我が国にあって、輝く存在であります。皆様と、今日まで皆様を温かく支えられた御家族をはじめとする関係の方々に、敬意を表します。

21世紀を迎え、我が国は、緊迫した国際関係、長引く景気の低迷等、内外ともに極めて厳しい状況下にあります。先行き不透明で、様々な課題が山積している今日、未来に向かって、自らの力で「新しい時代を切り拓く、心豊かでたくましい日本人の育成」こそが必要であります。そのため私は、昨年8月、これを実現するための教育の目標と具体の施策を取りまとめた「人間力戦略ビジョン」を明らかにしたところです。

このような目標の実現は、多くの人々が生涯を通じて学び続けることのできる生涯学習社会においてこそ、初めて可能となります。放送大学は、「いつでも」「どこでも」「だれでも」大学教育を受けることができる、時代のニーズに合った生涯学習の中核的な機関であり、今後一層の発展が期待されております。文部科学省としても、積極的に支援に努めてまいります。

本日御卒業の皆様は、本学で学ばれたことを誇りとして、今後とも研鑽を積み、約10万人にも及ぶ在学生の進路を照らす光となっていきたいと期待しています。

卒業はまた新たな出発でもあります。今後、これまでの御努力の成果を活かし、各方面で御活躍されるようお祈りするとともに、さらに「生涯学習」を続けられますよう願っております。

最後に、丹保学長をはじめとする放送大学関係者の皆様方の御尽力に、深く敬意を表しますとともに、今日までの熱心な御指導に感謝を申し上げ、あわせて本学のますますの御発展を祈念いたしまして、卒業式に当たってのお祝いの言葉といたします。

総務大臣祝辞

総務大臣 片山 虎之助

総務省総務審議官 松井 浩（代読）



本日、ここに平成14年度放送大学卒業式が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

皆様、御卒業誠にありがとうございます。

皆様は、年齢層も幅広く、また、職業をお持ちの方も多いと伺っております。御入学以来、学業を全うするため、日々の御努力を積み重ね、本日、晴れてこの喜ばしい日を迎えられましたことに、心から敬意を表します。

現在、我が国では、より充実した人生を送ろうと、働きながら、あるいは家庭に居ながら、勉学に励まれている方々が多数おられます。皆様におかれましては、御卒業後は学習の成果を生かして社会の各分野で御活躍になり、皆様の後に続く方々の大きな励みとなっていただけのもとの期待いたします。

昭和58年に設立された放送大学は、この平成15年に設立20周年を迎えるものであり、在学生の数を着実に伸ばしてきたとともに、本日御卒業になる方を含めて2万5,000を上回る卒業者を輩出してきました。これは、放送大学が、そして放送大学学園が、「大学教育のための放送の普及発達」に大きく貢献してきたことを示すものであります。この場を借りて、関係者の皆様に深く敬意を表します。

放送大学の設立20周年に当たる本年、平成15年は、我が国でテレビジョン放送が開始されて50周年を迎える節目の年でもあります。さらには、本年12月からは、地上デジタル放送が関東、中京及び近畿の三大都市圏で開始される予定となっております。

デジタル放送は、各家庭に身近で簡便なIT基盤を形成するものであり、国民生活に密着したメディアとして一層発展していくことが期待されております。放送のデジタル化は、高品質な映像・音声、データ放送、双方向サービスなどを可能とするものであり、国民生活を豊かにするものであります。

中でも、教育・教養分野については、放送のデジタル化により、ハイビジョンによる臨場感あふれる高画質・高音質の教育・教養番組の視聴が可能となるほか、データ放送により付加価値の高い学習関連情報を自由に検索できるとともに、双方向サービスを活用することにより学習理解を一層深めることができるようになります。このように、教育・教養分野は、デジタル技術のメリットを最大限活用していただける分野の一つと考えております。

放送大学におかれましても、デジタル技術のメリットを生かした放送による教育の充実に努めていただくことを期待しております。

最後になりますが、本日御卒業される皆様の一層の御活躍と、御臨席の皆様の御健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

答辞

卒業生総代 社会と経済 佐藤 強

本日は、私たち卒業生のために、このように盛大な式典を挙行していただき学長先生をはじめ、諸先生方並びに職員の皆様に、心より感謝を申し上げます。また、先程は、大変お忙しい中、ご臨席いただきましたご来賓の皆様から、心のこもったご祝辞をいただき、厚く御礼申し上げます。

本日、ともにこの良き日を迎えることができました私たち卒業生は、年齢も、職業も、生活している地域も、また入学した動機も学習環境もさまざまです。そのように多様な私たちが、一堂に会し、ともにこの栄えある式典に参加しております。楽しい中にも苦勞の多かったこれまでの学習を振り返り、卒業の喜びがわき上がってくるのを全身に感じております。



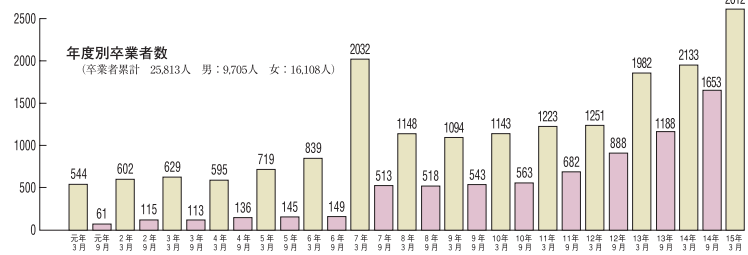
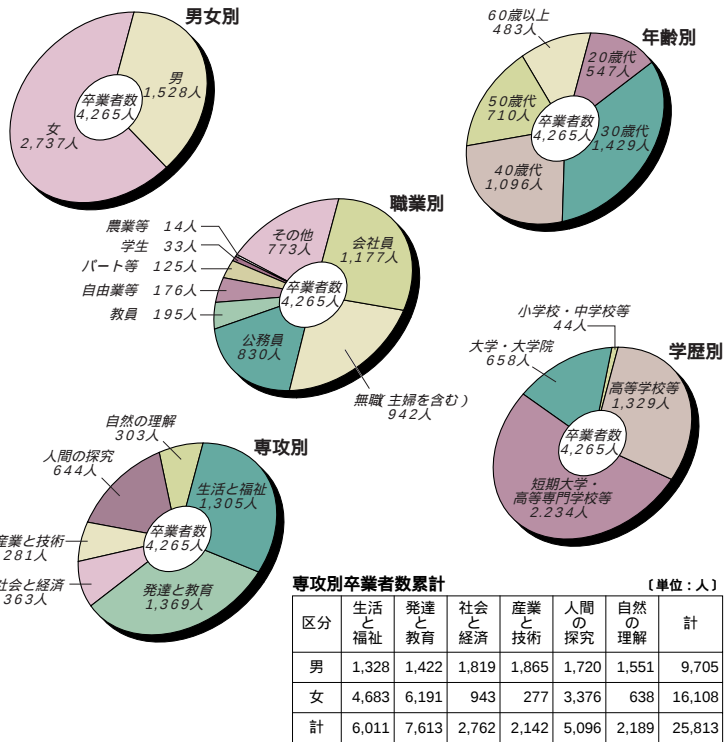
私は、新潟学習センターの第一期全科履修生です。高等学校卒業後、地元の新潟県に職を得た私は、自ら研鑽を積むため、通信制大学の教育を受けたいと以前から考えておりました。しかし、スクーリングなどに長期間の休暇が必要となるため、入学をためらっておりました。そのような時、知人から「放送大学で勉強してみないか」と、パンフレットを渡されたのです。そこには、放送授業により自宅で講義を受けられること、面接授業も短期間に集中して受講できること、平成10年10月から全国の学習センターで全科履修生を受け入れるようになることなどが書かれていました。遠隔地に住む私の希望がすべて叶うことがわかったのです。早速、放送大学の第二の開学とも言うべき全国化と同時に、入学いたしました。

しかし、実際に学習を始めてみると、さまざまな困難が待ち受けていました。職場が変わって深夜に及ぶ残業や土日出勤で、学習時間が思うように取れなくなりました。また、第二子の誕生や転居などで、学習環境も大きく変化しました。そうしたなかで、単位認定試験の結果が思わしくないこともありましたが、家族の協力により、何とか危機を乗り越えることができました。単位認定試験が終わると、同じ専攻で学ぶ県職員の仲間と居酒屋に集い、放送大学の学習が、業務や社会に対する視野を広げてくれたことについて、時間を忘れて語り合いました。

その学友達から、「同じ卒業なら、卒業研究を履修した方が達成

感は大いし、よい思い出になる」と勧められました。負担が大きいのでは、という不安はありましたが、生涯の節目になると考え、履修を決めました。幸い、テーマは身近なところにありました。21世紀とともに新潟市に編入合併したわが町「黒崎町」のその後に關する実証研究です。卒業研究ゼミでは、遠隔地に住む私のために、テレビ電話も使い、非常に充実した指導を行っていただきました。また、キャンパス・ネットワークを通じて資料を検索するなど、学習支援システムを最大限に利用して情報ギャップを乗り越え、市町村合併の利点と問題点に関する認識を深めることができました。「情報機器の高性能化は世界を狭くする」と言われますが、教養を身につけることによって、その効果はさらに高まると感じました。

平成14年度卒業生概要



社会の出来事や問題が以前よりもよく理解でき、身近に感じられるようになりました。学友の勧めにあった「よい思い出」よりもはるかに充実した体験ができたことを大変嬉しく思っております。

私は、現在、土木事業所で主に許認可手続きを担当しております。仕事上、法令を紐解くことが頻繁にあります。放送大学で法律や社会科学関連の科目を数多く履修したことで、以前はわかりにくかった法文を速やかに読み取り、また、多様な内容の申請に、迅速に対応できるようになったと感じています。放送大学での学習が、幅広い教養を“生きた知識”として役立てることを可能にしてくれたのです。

「少年老い易く学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず。」という有名な格言があります。少年と

いうにはやや歳を取り過ぎてはおりますが、私の放送大学での学生生活は、一面で「成り難い“学”」との格闘の連続でした。それを想うと、本日この場にあることがまさに夢のようでもあります。今後は、身に付いた「学」にますます磨きをかけ、「光陰を軽んず」ることなく、修士全科生を目指して日々努力を続けていきたいと思いをします。

最後に、いつも熱心にご指導くださいました諸先生方、事務手続きなどで私たちを支援していただいた職員の皆様、日ごろから励まし支えてくれた友人・知人、そして何より家族に心より感謝するとともに、放送大学の益々のご発展と、ご臨席の皆様のご健康、ご活躍をお祈り申し上げて、答辞いたします。

平成14年度卒業生数

	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探究	自然の理解	総計
平成14年9月	549名	504名	157名	98名	243名	102名	1,653名
平成15年3月	756名	865名	206名	183名	401名	201名	2,612名



学歌合唱

作詞 那珂太郎 作曲 柴田南雄 指揮 藤川能巳
ピアノ 佐伯有紀
合唱 放送大学千葉学習センター、東京文京学習センター、神奈川学習センターの合唱団

卒業生からひとこと

選科6年を加え入学10年目にし
てやっと手にした卒業証書は、今ま
でのどの証書よりも重い。ここで
一寸小休止。長い人生、これからが
楽しみな。マイペースで時間をかけ、
じっくりと学びたい。自分に拍手、
そしてお世話になった皆に感謝。
生活と福祉 坂下典子

今回の卒業は30年前の忘れ物を
取りにきた感じでとてもうれしいで
す。卒研では、三ツ木先生から論文
の基本的な組み立て方をていねいに
教わり書きあげることができ感謝し
ております。後輩の皆さんも是非卒
研をとってみて下さい。何か得るも
のがあります。
生活と福祉 大村三恵子

10年間、ぎりぎりまでかかって卒
業できました。全力で進んだ3年、中
だるみが5年、最後の踏んばりが2
年。自分をほめてあげます。新しい
道は、福祉の仕事を目指して、まず、
ホームヘルパー2級を取得中です。
生活と福祉 柴崎清子

三専攻目の卒業をひと区切りとし
て、冥土の土産にと卒業式に出席し
た。やっと三つめの一里塚を通り過
ぎたところであるが、「学而時習之、
不亦説乎」(論語)を胸に、たどた
どしい足どりながら更に歩みつづけ
たい。
生活と福祉 西山竹之

看護学校の単位が認められ、3年
次に編入できるようになったのをき
っかけに入学して4年、ようやく卒
業することができました。辛い時期
もありましたが、勉強することの楽
しさに気付き、春からまた再入学し、
がんばります。
生活と福祉 河村明美

第三子が中学校へ入学と同時に入
学し、お母さんと共に学習を頑張ろ
う!の合言葉でスタートしゴールを
迎えることが出来ました。専攻科目
では、仕事に役立つ授業が多く、学
んだことが即活用できたことが嬉し
い。
発達と教育 青木千恵子

高卒以来の念願が32年ぶりに叶
えられて満足しています。
前向きに頑張っておられる多くの
仲間の姿に励まされてきました。残
りの人生を考える機会が得られ、知
る喜び、学べる喜びを味わいました。
発達と教育 蔭山千恵

仕事をしながらの試験勉強や卒研
は大変でした。徹夜や2時間かけて
図書館に行ったり。でも証書をいた
だいた今となっては、自分をとても
誉められる良い思い出です。迷いの
中の皆さんもあきらめず頑張って欲
しいです。
発達と教育 内田勝美

息子が大学へ入学するのに合わせ
て、同時に放送大学へ入学しました。
息子にプレッシャーをかけるつもり
が、どうやら逆の立場になっていま
した。ここに晴れて卒業できる事にな
り息子と同時卒業の喜びを味わっ
ております。
社会と経済 平田純一

学長の告辞は実に素晴らしく、感
動いたしました。ビデオで再度視聴
するつもりです。多分、学長は自然
科学系だと思いますが、社会科学系
の学者・研究者が学長の目指すところ
の地球環境の保護のオピニオンを
打ち立てるべきだと思います！
社会と経済 河上 徹

父が病院の集中治療室に入ってい
るときに単位認定試験となり、大変
だったが単位がとれ、卒業できるこ
とになり感慨深いものがあります。
一つ提案ですが、授業料等の振込手
続がコンビニでもできるようになれ
ば便利です。
産業と技術 伊藤 訓

放送大学で何を学び取り、何を
つかむかはそれぞれの努力次第です。
卒業の価値はその努力の大きさに比
例します。結果も成果も自分自身で
決めなければなりません。がんばり
通して下さい。
産業と技術 宇山 純
試しにやってみようと始まった放

送大学。最先端の情報と熱意あふれ
る講義に引き込まれ勉強できまし
た。卒業まで、ビデオ録画から励ま
しと協力してくれた妻に感謝々々で
す。

産業と技術 西尾康三
放送大学で最も嬉しかったのは、
卒業研究を行うことができたことで
す。考古学分野のテーマを選んだと
ころ、幸いにも学外の研究機関を紹
介していただき、充実した研究報告
ができ上がりました。有難うござい
ます。
人間の探究 青木聖侑

他大学を中退し目標を失っていた
私が今日こうして卒業式に出席でき
るまでになったことは大変喜ばしく
思います。在学生の皆さん、どうか
多くの面接授業に参加して下さい。
必ず道を拓く事になると思います。
人間の探究 北畠嘉順

一昨年妻が卒業し、今回私が卒業
することが出来ました。夫婦で学び、
夫婦共に卒業出来たことに感謝いた
します。家族の理解があつての事で
すが、多くの方々の協力に心よりお
礼申し上げるしだいです。
人間の探究 土谷和生

昭和26年旧制専門学校を卒業し
て以来、52年ぶりの卒業に嬉しさ
も一入です。
物の本質を知ることによって、頭
の劣化を防止し、新たな発見がその
中にひそんでいるのではと、ひそか
に思っています。皆様も恐らくひそ
かに思うことを追求していただきた
いと願います。
自然の理解 赤星平四郎

諸先生の素晴らしい講義有難うご
ざいました。いくつかの校外実習も
参加させて頂き、青春の頃を思い出
して学習できました。今日卒業式に
参列でき感激しています。73歳の
この春を最高の喜びで迎えられま
す。感謝。
自然の理解 後藤嘉治雄
(敬称略)

退任のあいさつ



6年前に北大から着任し、健康
科学を担当しておりました。職業
教育を縮小してもよい生涯
教育とはならないこと、「生活
と福祉」の一環としての位置づ
け、そもそも生活と福祉とはな
にか、といった点を模索する年
月でした。医学医療はGDPの
10%余りを消費する巨大な社
会的存在であることを考える

医学と社会の接点をどう学ぶか

生活と福祉 教授 埼玉学習センター所長 近藤 喜代太郎

と、人体内部のできごとを学ぶ
だけでは不十分で、社会との接
点にも等しく配慮する必要を痛
感し、早速「医療・社会・倫理」
という科目を作ったところ、健
康科学の他科目に勝るとも劣ら
ない数の学生が集まることを知
りました。
今日、生活とその破綻は国民
最大の関心事となり、学問的知
見もますます複雑化・高度化し
ています。健康の破綻も個人・
社会・国家のすべてのレベルで
生活にかかわっています。現在、
生活と福祉、発達と教育の2専
攻で全学生の60%となってい
ることは、これらの分野への関

心と生涯教育ニーズの高さを示
すものです。私共は学問的な高
みを喪失しないで、最新の学理
を平易に伝え、こうしたニーズ
に応えるように努力していま
す。
6年間は私にとっても誠に有
意義でした。停年より1年早く、
4月1日からは老年内科の臨床
医に戻ることにとなりましたが、
客員教授のかたちで科目の制
作、学生指導はそのままつけ
させていただきます。
最後になりましたが、本学と
皆様の発展を心から願っていま
す。

放送大学で学ぶ視覚障害者のために - 「菜の花の会」より -

「菜の花の会」は、放送大
学で学ぶ視覚障害のある学生
が点字化された印刷教材を入
手しやすくすることを目的
に、第1回卒業生を中心に作
られたサークルです。視覚障
害者が学ぶには点字化された
本が必要です。これまでは学
期の始まる1週間前に送られ
てきた教材を各学生がそれぞ
れいろいろな点訳サークルに
点訳を依頼していました。そ

の結果、あちらこちらで同じ
科目の点訳がされており、そ
して互いにそれを知らないで
いました。また、点訳作業は
時間がかかり、すぐには入手
できません。「菜の花の会」
はその無駄を省き、学生が点
訳済みである科目の点字本を
入手しやすくするために、点
訳サークルと学生をつなぐ
「点訳済み科目リスト」を年
2回発行しています。このリ

ストは大学本部・学習センタ
ーを通じて学生にお知らせし
ています。しかし放送大学の
科目は4年ごとに改訂されて
おり、リストもその都度更新
が必要です。「菜の花の会」
ではリストをより充実させて
いくため、点訳や、パソコン
でのワープロテキスト入力な
どでご協力して下さい方を募
っています。連絡先は下記の
とおりです。

「菜の花の会」代表者：杉山 和子
〒341-0003 埼玉県三郷市彦成3-13-7-102
TEL・FAX 048-957-7825 e-mail zxcvsugi@ca2.so-net.ne.jp

就任のあいさつ



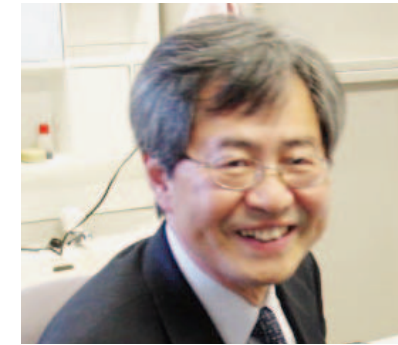
変化の時代に

産業と技術
政策経営プログラム教授 鈴木 基之

でいくと、将来的には地球全体の破局が見込まれることが危惧されています。これを如何に防ぐのかという大きな問題に応えていかななくてはならないのが我々の任務です。この答えは一つに如何なる人間活動が「持続可能なあり方」であるかを吟味し、その実現にむけて具体的な努力をしていくことが必要となるでしょう。人間活動と地球上の自然生態系の間の共存のあり方をシステムとして考えていく、これが「環境工学」の目標となります。

放送大学が共にしてきた20年の世界の変化は真に目まぐるしいものであり、20年前に

種々の事柄が我々に与えた新鮮な驚きは、今では当たり前のものであったり、過去のものとなっていることが多いでしょう。このような変化の中で我が国の社会各層における仕組みがそうであるように、大学や高等教育も新しい形態、新しい機能を求められ、その改革のための産みの苦しみを経験しているときであります。さて、放送大学はその独特な存在形態を通じて、どのように社会の変革や世界の変貌に貢献していくことになるのでしょうか。放送大学の新生の一人として、少しずつ考えてみたいと思っております。



バイオと環境

愛知学習センター所長 塚越 規弘

本年4月から愛知学習センター所長として就任いたしました。愛知学習センターの発展ひいては放送大学の発展に微力を尽くすつもりでおりますので宜しくお願いいたします。

21世紀は環境、食料問題などで研究者が世界的に協力し解決しなければなりません。私は微生物の多様な機能をこれらの問題解決に利用することを目標に遺伝子の発現制御機構の解明を試みてきました。多数の生物の

ゲノム解析が完了しておりますが、わが国の発酵産業で極めて重要な役割を果たした麹菌（国菌と呼ぶ人もいます）のゲノム解析もほぼ完了し公開される段階にきております。私は麹菌が大量に生産するタカアミラゼAの遺伝子の発現誘導について転写誘導因子、転写促進因子、転写抑制因子などを中心に解析いたしました。また、その成果を利用して極めて効率的な人工プロモーターを構築し、多様なエコザイムを生産して組換え体酵素による環境負荷の低減化を試みてきました。放送大学にはどちらかという文系の学生が大半であります、バイオ技

術も例えばGMF（Genetically Modified Foods）などは実生活と切り離せない状況であり、バイオの知識を常識として持つ必要があるでしょう。愛知学習センターでも時間ができたら、ゼミなどを通じて学生にこれらの事を理解させたいと考えております。しかし、平易に且つ正確に話しをすることが如何に難しいかを思うとなかなかその気になれません。

最後に、3月17日から25日までアシロマで開催されたカビの分子遺伝学会に参加いたしました。会議中にイラク戦争が始まってしまい、一日も早い世界平和の回復を祈っております。



「教養」への橋渡しとして

人間の探究
総合文化プログラム（文化情報科学群）助教授 宮本 徹

味を持たれているのではないのでしょうか。自分自身の経験を申しますと、私が中国語を学習するきっかけとなりましたのは、いわゆる漢詩への興味からでした。原音で朗々と詠いあげられる漢詩の響きを聞くうち、しだいにその響きを響きたらしめている中国語そのものに関心を持ち始め、いまでは中国語の発音の歴史を研究するようになりました。つまり私にとっての中国語学習とは、当初の素朴な興味を現在の研究に繋げてくれる橋渡しの役目を果たしてくれた存在でした。

みなさんはそれぞれの興味や動機をもって放送大学で学習され、ここで身につけられた「教

養」を、将来、社会の様々な分野で生かされることになるだろうと思います。最も基本となるのは、みなさんそれぞれがお持ちの知的な好奇心です。私は、大学教育における「教養」が個人と社会を結びつける紐帯であるとし、その「教養」と各人の好奇心を結びつける一つの紐帯となり得るものが大学における語学教育だと考えています。みなさんの中で一人でも多くの人が、中国語の学習を通じ、自らの好奇心をより広い「教養」に結びつけられるよう願っております。もちろんそれが中国社会や言語に関するものであれば、それにまさる喜びはありません。



効果を診ながらの教育

福岡学習センター所長 押川 元重

この4月に福岡学習センター所長に就任いたしました。それまでは九州大学において数学の教育研究を行い、とりわけこの10年間余りは教養教育の企画運営に当たってきました。そうした経験の中から、大学教育も、ただ行うだけではなく、効果を診ながら行うことが必要になってきたと強く感じるようになりました。それは学問が学問として存在するだけではなく、さま

ざまに使われるようになってきたことに関係していると思います。また、限られた人間のみが学問へのアクセスが可能であった時代には、学問へアクセスできることがエリートであることを意味しましたが、大学教育が大衆化した現在ではそうした意味合いが薄れてきたことにも関係していると思います。

効果的な教育を行うためには、学習意欲をつくりだすことを配慮しながら、難しい内容を理解しやすく教えるための工夫をすることが大切です。20年くらい前のことですが、放送大学が生まれると聞いたとき、そ

れによって大学教育に大きな変化が生まれるに違いないと思いました。豊かな映像技術を用いて、系統的な改定を重ねてつくられた教材による教育が行われることになれば、それに勝る教育を実施し得る教員がどれだけ存在しうであろうかと考えたからです。また、教育において重要な工夫と経験の積み重ねは個人では限界があるからです。効果的な大学教育が求められるようになってくれば、放送大学の教育が持っている特性がますます力をもってくるに違いないと思います。よろしくお祈りいたします。

放送大学学生実態調査(02)

発達と教育 教授 岩永 雅也

調査の意義と目的

放送によって授業を行う遠隔高等教育機関である放送大学には、教室での座学を中心とする従来型の大学とは異なっていくつかの特徴がある。そのうちでも最も際立っているのは、教員と学生とが直接的に関わる機会の少なさである。放送大学は、一方通行の放送を全面的に利用することで、教員と学生とが最も離れた大学となっている。従来型の大学であれば、授業中の発言や質問、居眠り、私語などを通して教授者に伝わってくる学生の反応が、非常に捉えにくくなっているのである。それに加え、放送大学生は他に類を見ないほど属性や興味関心、学習目的そして基礎学力の程度が多様であり、「標準的放大学生像」を求めることは不可能に近い。学生は概ねこんな具合に学習し、こんな風に考えているだろうという推測も容易にはできないのである。

そうした事情から、放送大学では、これまでに数次にわたって学生に対する質問紙調査を実施し、学生の学習実態や意識の把握に努めてきた。しかし、種々の事由により、平成7年度の在学生調査（以下7年調査）と10年度の卒業生調査（以下10年調査）以降、総合的な調査は行なってこなかった。その間、教学システムにも変化があり、また大学を取り巻く状況も大きく変わった。時代や社会の要請に即応した教育を目指す上で、学習の実態や意識を随時把握しておくことの重要性はますます高まっている。われわれはそうした背景のもと、本学で学ぶことの意味がどう理解され、どのように学習が進められているかを知るため、昨年秋に学生、卒業生を対象とした総合的な実態調査を実施した。

調査の構成と概要

調査は、全体として4つの部分からなっている。まず1つ目は、蓄積された教務データの時系列分析である。在学者、入学者の推移だけでなく、登録単位数、単位認定試験受験率、単位取得率等についても時系列的に経年変化を見た。特に、7年調査以降のトレンドに注目した。2つ目は在学生（学部生）調査であり、在学中の全学生種を対象に、入学の動機と目的、学習の方法、番組視聴状況、各種教材と学習支援システムの利用状況、教材評価などを尋ねた。3つ目は卒業生調査で、卒業研究の履修状況とそれへの評価、放大大卒業による生活と意識の変化等を尋ねた。最後は科目意識調査であり、全放送科目を対象に、それらを履修した学生に対して科目ごとの感想や評価を尋ねた。

実査は平成14年10月に行った。教務データの時系列分析以外は、すべて標本を無作為抽出した標本調査で、郵送法で実施された。在学生調査は標本数3,000で回収票は1,110票（回収率37％）卒業生調査は標本数3,000で回収票は1,637票（回収率55％）そして科目意識調査は標本数17,396で回収票は7,658票（回収率44％）であった。督促をしなかったこともあって、残念ながら回収成績は低かった。結果を読み取る際には、その点に十分注意する必要がある。

調査結果から

調査の知見のなかから、特徴的なものを紹介しよう。教務データの時系列分析からは、7年調査以降のトレンドをいくつか見出すことができた。まず、科目登録者の増加にもかかわらず、科目登録率（科目登録者数を全在学者数で割ったもの）が78％から72％へと傾

向的に減少していることがわかった。在学のみ[＊]の学生がやや増加していることになる。その一方で一人あたりの平均登録単位数は6.7から7.5へと増えているが、単位取得率（分母は登録者）は逆に50％から40％に減少しているため、全体としては単位取得速度が鈍化していると見ることができよう。

各調査のなかで最も質問数が多かったこともあって、在学生調査からは非常に多くの知見が得られた。ここではその一部を紹介する。調査では初めに入学の動機と目的を17項目にわたって尋ねているが、それら相互の相関分析をした結果、共通性のある4つの項目群に分かれることがわかった。それらには内容を勘案して「大卒資格指向」「専門教育指向」「教養指向」「余暇学習指向」というタイトルを与えた。性、年齢、専攻（全科生）ごとにその値を見たものが図表1である。図表からもわかるように、全体として教養指向が強いこと、大卒資格指向は女性の方が高いこと、人間の探究専攻の教養指向、余暇学習指向が高いことなどを[＊]見て取ることができる。また、それぞれの動機の強い群ごとに放送大学の教育システム全般に対する満足度の平均を示したのが図表2であるが、これを見ると、余暇学習指向が強いほど満足感も大きく、大卒資格指向はあまり満足度と関係していないことがわかる。なお、併記したのは7年調査の結果であるが、全体に満足感が低下していることには注意すべきであろう。とりわけ大卒資格指向と専門教育指向でその傾向が強い。

在学生調査からは、それ以外にも多くの知見が得られた。「15本の番組を平均して何本視聴するか」という問では、テレビの場合、3本以下（26％）と13本以上（40％）に二極分化する傾向が見

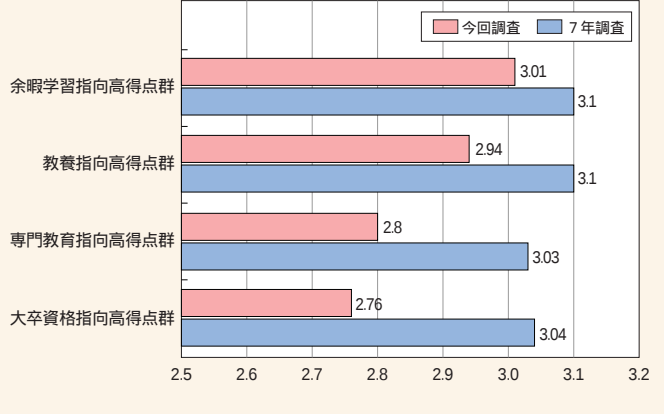
図表1 属性等による入学動機類型平均得点の差異

	入 学 動 機 類 型			
	大卒資格指向	専門教育指向	教養指向	余暇学習指向
全 体	6.31	7.60	8.97	6.16
性 別				
男性	5.51	7.03	8.72	6.30
女性	6.85	7.98	9.13	6.07
年齢階層別(部分)				
25～34	7.61	8.35	9.04	5.75
45～54	6.09	7.91	9.32	6.35
65～	4.43	5.82	8.70	7.57
専攻別(全科履修生のみ)				
生活と福祉	7.14	7.78	8.95	6.39
発達と教育	8.22	8.82	9.28	5.83
社会と経済	6.79	7.98	8.95	6.35
産業と技術	6.86	8.05	9.21	6.28
人間の探究	6.53	6.76	9.64	6.91
自然の理解	6.67	7.60	9.48	5.67

＊平均得点は、3項目を合計したため12点満点で、12点に近いほどその類型の動機が強いことを示している。
＊イタリックは縦の列で見た場合の最大値である。

られた。この傾向は7年調査の時点よりもいっそう強まっている。そこに番組重視の群とそうでない群との併存を看取しうる。学習方法に関しては、視聴時に印刷教材も併読するという回答が最も多く、ノートをとるという回答は最も少なかった。もっとも、印刷教材の余白にメモするという回答が2番目に高かったことから、全く筆記をしないわけではないことが窺える。調査では面接授業に関しても尋ねているが、そこで目立っ[＊]たのは、実習型の面接授業の効果が大きいという評価と、土日型面接授業の人気の高さである。特に後者は、7年調査と比べて全体に評価が下がっているなか[＊]にあって唯一著しく評価を高めている。このタイプの面接授業の定着ぶりを示すものといえよう。今回の調査では、インターネットの利用状況とそれを[＊]用いた双方向授業への希望も尋ねた。ネットの利用者は、若年層、中年層で8割に達しているが、65歳以上の層では3割強に過ぎない。しかし、興味あることに、ネットによる双方向授業の希望では、若年層、中年層の7割前後に対して、高齢層では8割と逆転しているのである。現在の利用の如何にかかわらず高齢層が多様な双方向学習を切望している状況が見て取れよう。「ほとんど印刷教材の学習だけで単位を取得した科目の比率は」という問では、8割以上という回答が23％に上っているが、この比率は7年調査

図表2 入学動機類型別総合的満足度



に比べ8ポイントも上昇している。特に若年層でその傾向が強い。

授業科目の選定基準に関しては、科目名や授業内容ではなく試験の日程を最も重視するという結果が出た。その傾向は25歳から44歳までの層で特に強い。また放送大学への今後の要望としては、専門的資格の取れる科目の増設という回答が最も高率であった。こうした結果から、「知」の体系を総体的に学びたいという欲求に対して、学習者個々人の特性や必要に応じたオンデマンドな学習という要請の方が勝ってきた状況を読み取ることもできよう。放送大学の今後の教育システムのあり方に対する重大な問題提起だと受け止めたい。

卒業生調査の目的は、もっぱら放送大学を卒業することの効果と意味というところにあったが、ここではその結果から次の2点を紹介しておこう。まず第1点は、卒業したことによる生活や意識の変化についてである。10年調査と比較して全体に卒業の効果に対する評価は低下しているが、とりわけ、生活に張りが出た、友人が増えたといった周辺的な効果での低下が目立つ。それに対して、心身への関心が高まった、教育への関心が高まったなど、具体性のある主観的效果は一様に高い。その結果、放送大学での学習に全体として満足、といった総体的満足感は有意に高まっている。知見の第2点は、卒業の実体的効果に関してである。10年調査と比べての著しい変化は、「卒業後何も変化な

し」という回答が70％から44％へと激減したことである。つまり、半数以上の卒業生が何らかの身分上の変化を体験したことになる。その要因は、放送大学大学院進学、他大学大学院進学、そして放送大学への再入学の増加で、その三者を合わせると42％に上る。残念ながら職業上の変化は少数であるが、大学院進学へのステップという効果には注目してよいだろう。

最後に、科目意識調査からは、全体としてラジオ科目よりもテレビ科目の評価が高いこと、テレビ科目は制作費の高いもののほど評価が高いこと、印刷教材の評価はラジオ科目の方が有意に高いこと、などを知ることができた。また、在学生調査同様、単位認定試験の準備はもっぱら印刷教材で、という回答も多かった（73％）。

他の調査とは異なり、科目意識調査の主な目的は、科目を提供する大学の側がその結果を教材とシステムの改善の資料とすることにある。調査の結果はすでに各科目の主任講師に提供されて検討されているが、それによって調査の目的の大半は果たせたといつてよいだろう。

大学を取り巻く厳しい環境のなかで、放送大学には今後学習者本位の生涯教育機関としての機能性を高めていくことがいっそう強く求められると予想される。調査実務に携わった一人として、今回の調査結果がその達成の一助となることを願ってやまない。最後になったが、面倒な調査にご協力いただいた在学生および卒業生の皆さんに、心から感謝の意を表したい。

平成15年度学部開設科目紹介

ゲノム生物学(03) — 生命科学革命と21世紀の社会 —

ヒトゲノムの解読の話題がメディアを通じて報道されるようになってから、ゲノムという言葉は一般の人々の耳にもなじみやすくなった。しかし、だからといって、ゲノムについての理解が広く浸透したのではないという現実、科学に関する日本の実態を如実に示す典型例である。バイオテクノロジーについての支持と反対の論議は、科学を離れてイデオロギー論争に発展しそうなおもむきをさえ一部に匂わせる。

ゲノム生物学は、遺伝学の延長線上で発展してきた。そこで、この科目の第1の柱としては、メンデルの法則の発見の生物学的な意義の再確認からはじめ、その後の生物学の発展の中でゲノムの研究がどのような意味をもってきた

か、今後ゲノム生物学はどのように発展し得るかについて論述する。また、遺伝学は一貫して社会の要請とかかわり合いながら発展し、資源の確保や医療の発展と深く関わってきたため、ゲノム生物学の発展はバイオテクノロジーの進展を促してきた。バイオテクノロジーはどこまで進んでいるか、その科学的な現状を正しい理解に導くことが、第2の柱である。また、バイオテクノロジーの発展は、未来に対する大きな夢を育むと同時に、さまざまな危惧も抱かせる。人を扱う医療では、新しい技術がさ

まざまな倫理的問題を提起する。バイオエシックスと呼ばれる生命科学の倫理の課題はゲノム生物学の第3の柱である。

この主題科目では、これら3つの柱に基づいて、科学的な知識の整理を試み、学習の素材を提供しようとする。



岩槻教授



近藤客員教授

中小企業の挑戦(03)

— グローバル化・ハイテク化・高齢化時代のもの造り — 「中小企業の挑戦」を作成して

バブル経済崩壊後の不況の長期化と、1995年の超円高、90年代の中国経済の躍進のなかで、わが国の製造業は空洞化の危険にさらされている。これまでわが国の経済成長の牽引車であった自動車や電機、機械メーカーなどが相次いで中国へ進出し、わが国の50分の1という低賃金と外資の先進技術・経営管理手法とを結合した安価で品質もよい製品の流入が増加している。

わが国は、土地や天然資源に恵まれないにもかかわらず、否むしろそれなるが故に、金属加工工業の製品開発と技術進歩によって、世界一流の所得水準を達成し、豊かな国になった。これには、金属加工のための素形材、とくに鋳物

や金型の分野で、中小企業が優れた技能・技術を蓄積して来たことに負うところが大きい。その縁の下に力持ったたちがいま存亡の危機に立たされながら、苦闘しているのである。

私達は、この十年来、こうした問題意識に駆られて、鋳物や金型、ハイテク分野の中小企業を訪ね、社長さんや経営者の苦労話を聞いてきた。われわれはいま、一世紀に一度起こるかどうかわからない大きな歴史の転換点に差し掛かっている。とくに、中国やベトナムが、市場経

産業と技術 教授 神代 和欣

産業と技術 教授 中島 尚正

済化を進めていることは、世界史的大事件である。それにわが国の中小企業がどう関わっているのか、ぜひ映像の記録にとどめておきたかった。中国問題や塑性工学分野の権威者が多数協力してくださったことに感謝している。



神代教授



中島教授

近代日本における外国文学の受容(03) 人間の探究 教授 山内 久明

大手前大学 副学長 川本 皓嗣

この科目は、2人の主任講師と5人の担当講師(中直一、中村健之介、斎藤文子、松永正義、杉田英明の諸氏)の協力によってできあがりしました。対象となる外国文学は、イギリス、ドイツ、フランス、ロシア、スペイン・中南米、中国、イスラム文化圏にわたります。漢字の輸入以来続いた中国文化の影響は周知のとおりですが、明治以降の西欧の衝撃を考えずに日本文学・文化を語ることはできません。また外国文学の受容には、研究者、翻訳者、創作者だけでなく、読者の存在も深く関わっております。

「他者」としての外国文学と日本という「自己」とは、相対的・

相関的な関係にあります。「他者」が存在する以上、「自己」はそれを見無視できません。「他者」を視る「自己」の眼差しによって「他者」が変わるだけでなく、「他者」との相互作用によって「自己」も変わります。シェイクスピア、ゲーテ、ドストエフスキーなどが日本でどのように受容されたか。夏目漱石、森鷗外、大江健三郎などが外国文学とどう対峙し、それを自己の創作にどう取り込んだのか。「受容」とは単なる受け身ではな

く、相互の共鳴、同化、反撥、拒絶、変容などの過程を経て能動的な創造に繋がるものであることが、多くの事例から見えてくるはずです。



山内教授



川本大手前大学副学長

身体福祉論(03) — 自活できる能力の保持 —

生活と福祉 教授 宮下 充正

生活と福祉 助教授 臼井 永男

これまで、わが国の経済発展は順調でしたから、余った利益を老人医療費や年金などの福祉関連の施策へまわすことができました。しかし、国の経済がうまくいかなくなると、社会的弱者に対する補助は減少してしまい、医療費の個人負担や介護保険料の値上げとなってきたのです。こうして、福祉施策の見直しははかられるようになったのです。このことに関して、社会保障を含む手厚い福祉サービスの供給は、人びとの依存体質やただ乗り意識を高め、自己責任でリスクを回避する能力を低下させてしまう、という人がいます。だから、自己責任にもとづいた自助を拡大することが重要であるということです。

人間は行動能力が未熟な状態で誕生します。そのため、誕生直後から親を中心とした周囲の人たち

の手厚い援助がなければ行動できませんし、運動実践が不足すれば自由な行動ができる成人になることが難しいのです。また、65歳を過ぎるころから老化による変化が目立つようになります。そうなる歩くのにも杖などの補助具が必要となり、終には自立して動けなくなる人もでてきます。それを食い止める唯一の方法は、運動を実践継続することです。

他方で、生物的に充実した20歳から65歳までの人でも、先天的に運動障害を有していたり、病気や事故でからだを自由に動かすことが困難になったりする人がいます。そういった人でも、運動を実践継続することによ

て、うまく動けるようになったり、あるいは、からだの他の機能が向上したりする可能性があるのです。

このような理由から、できるだけ多くの人たちが自ら意識して運動することをすすめるのです。辞典をみると、福祉は幸福とあります。文字通り、からだに幸せをもたらす学問、「身体福祉論」と題して講義することにしました。



宮下教授



臼井助教授

仲間とともに

私たちの活動の一つとして重い意味をもつものに、研究者仲間との組織を通じての共同の営みがある。専門領域を限ったの研究会と全国組織の学会とに付き合いの場は大別されるけれど、私の場合、後者の中で最も縁の深いのが「史学会」である。その機関誌『史学雑誌』から昨秋「回顧と展望 古代ギリシア」の執筆依頼が舞い込んだ。「回顧と展望」は同誌が半世紀以上つづけている前年の歴史学全領域に亘る動向総括で、現在では100名近い執筆者が400頁の紙幅を使って専門誌・紀要掲載の論文を軸に紹介と批評の筆を揮う。「総説」や「歴史理論」はともかく「古代ギリシア」の担当となると20数年ぶり、この欄の執

筆は若手・中堅の研究者が気力と体力にまかせて行う荒行ゆえ依頼に戸惑ったけれども、荒行に未だ耐えうるとの評価かと意気を感じて引受け、春の彼岸過ぎ苦闘のすえ書き上げた。論文は高水準の力作が並び、それらの多くが古代ギリシア史像の新たな構築には論究必須と目される問題群にかかわる。私の研究も、実はこのような動向の一環としてある。海外各国における19世紀以来の膨大な蓄積とともに、第二次世界大戦後、急速に進展を遂げた我国固有のギリシア史研究が私を支えている。改めてその思いを深くした。

「古代史の会」というこれも因縁浅からぬ研究会が、恒例の新年の集まりの折、私がこのたび

人間の探究 教授 伊藤 貞夫

学士院会員に選ばれたのを祝ってくれた。その席で畏敬する先輩ローマ史家から「博物館に入らぬように」との忠告を頂戴したが（日本学士院の建物は上野公園内にある）この辛口の忠告も、今の私の支えである。



社会と経済 教授 林 敏彦

いて、今年中には『経済学入門』のテキストも待っている。

いったいここは何屋さんですかと言われそうだが、これが経済政策の私の研究室なのである。



経済政策の研究室

ここ数年の研究を最近2冊の編著にまとめることができた。1冊は坂井利之・東倉洋一・林敏彦編著『高度情報化社会のガバナンス』（NTT出版、2003年3月）で、もう1冊は植草益総編集「日本の産業システム」中の第五巻、林 敏彦編著『情報経済システム』（NTT出版、近刊）である。

前者は、(財)国際高等研究所における共同研究プロジェクトをベースにしている。このプロジェクトには、エンジニア、社会科学者、哲学者、都市計画の専門家、中央および地方の行政マン、放送人など40人が参加し、3年間にわたってまさに学際的で領域融合的な研究が続けられ

た。後者は、日本の産業システムを従来の産業分類を超えて横断的に理解しようとする編集意図のもと、情報通信技術の発達をもたらす情報経済システムについて、9人の研究者が執筆してできあがった。

もう一つ今年中に出版したいテーマは「都市のガバナンス」である。これも、阪神・淡路大震災後の都市の復興という課題に端を発した研究会のアウトプットとなる予定であるが、都市経済、都市行政、都市経営といった視点からまとめたいと思っている。他に、情報通信技術の国際的普及、途上国への直接投資、エネルギー安全保障などの問題について英文論文を書いて

学習センターの整備

鹿児島学習センターの移転

- 歴史と自然が調和した鹿児島の文化ゾーンに -

鹿児島学習センター所長 西中川 駿

ち並び、歴史と自然環境が調和した鹿児島市の文化ゾーンに面した旧県庁跡地に総事業費226億円をかけて南九州随一の情報の発信地として、素晴らしい環境の中に建てられました。地上6階、地下2階の建物の中には鹿児島県の県民交流課、生涯学習課、ハーモニー推進課、介護実習・普及センターなどがあり、大小様々なホールや研修室それに能舞台まで備え、前の広場は公園として開放的な県民の憩いの場になっております。

鹿児島学習センターは、この建物の4階西側を借用し、図書・視聴学習室、講義室、学生相談室、学生控室、事務室、教員研究室などを備え（567㎡）自主的な生涯学習と様々な世代や職業の方々との交流を深め、その学習成果を地域社会に活かせる拠点として発展するように、教職員一団となって企画・運営に努力しております。



放送大学鹿児島学習センターは、平成10年に学生の受け入れを開始し、以来延べ1万4,000余名の方々が学習に励んでこられました。この間センターは旧鹿児島県庁舎、旧県警本部庁舎などを転々として参りましたが、平成15年4月に新築オープンした「かごしま県民交流センター」の中に安住の地を得て学習活動をする事になり、すでに15年度の全科履修生、選科履修生、科目履修生、および修士全科目生、修士科目生など約1,870名の学生を受け入れ、面接授業などを開始しているところであります。

鹿児島学習センターのある「かごしま県民交流センター」は、古きよき薩摩を偲ばせる城山の麓、島津の鶴丸城跡を中心に、国道10号線沿いに博物館、美術館、図書館、歴史資料センター黎明館などが建



岩村教授 日本学士院賞受賞

岩村 秀（いわむら・ひいず）教授（自然の理解及び総合文化プログラム・環境システム科学群所属、東京文京学習センター所長）が、伊藤 公一氏（大阪市立大学名誉教授）と木下 実氏（東京大学名誉教授）と共同で、優れた学術業績を顕彰する2003年度日本学士院賞を受賞した。

専攻学科目は、有機化学で、受賞研究名は、「分子性磁性体の研究」である。

受賞理由

磁性の根源は、対を形成していない電子であるため、磁石となる物質は、鉄、コバルト、ニッケルなどの金属、合金、その酸化物に限られていた。これに対して、有機化合物など分子からできている物質は、その中で電子が2個ずつ対をつくっているため、磁石とはならない。この科学の常識に挑み、基礎となる新概念を確立し、実験研究を進め、世界に先駆けて、分子性物質で磁石を実現することに

成功した。21世紀の科学技術の一つの柱であるナノマテリアルのシーズとしても注目されている。



教養学部学生及び大学院修士科目生募集

平成15年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

平成15年6月15日(日) ... 平成15年度第2学期学生募集要項配布開始

出願期間	平成15年6月15日(日)～平成15年8月31日(日)
可否通知等	平成15年8月上旬～平成15年9月中旬
学費の納入	平成15年8月上旬～平成15年9月中旬
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成15年8月中旬～平成15年9月末
授業開始	平成15年10月1日(水)

- ・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦めいただくようお願い申し上げます。
- ・また、平成15年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成15年度第2学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学料が割引になります。
- ・出願締切日は平成15年8月31日(日) 必着 です。

大学院文化科学研究科修士全科生募集

放送大学大学院文化科学研究科では、平成16年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

平成15年6月15日(日) ... 平成16年度修士全科生学生募集要項配布開始

出願期間	平成15年9月1日(月)～平成15年9月16日(火) 18:00(必着)
第一次選考(書類選考)	平成15年10月上旬
第一次選考(書類選考)可否通知	平成15年10月9日(木) 発送
第二次選考(小論文試験)	平成15年10月26日(日)
第二次選考(面接試験)	平成15年11月15日(土)～平成15年11月16日(日)
可否通知等	平成15年12月12日(金) 発送
学費の納入	平成16年3月上旬～平成16年3月中旬
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成16年3月上旬～平成16年3月末
平成16年度授業開始	平成16年4月1日(木)

- ・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。
- ・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方に対し、入学者選考を行った上で入学を許可します。
- ・修士科目生として修得した単位は、本学大学院に修士全科生として入学した場合、修了に必要な単位として通算される場合があります。

平成15年8月1日(金)～8月11日(月)までに願資格事前審査があります。詳細は募集要項をご覧ください。

来学期も引き続き学籍のある在学生の方は、「科目登録申請要項」で7月25日(金)消印～8月9日(土) 必着 までに科目登録を行う必要があります。(科目登録申請開始の8日前になっても関係資料が未着もしくは紛失した場合は大学本部等にお問い合わせください。[詳細は学生生活の栞をご参照ください])

大学院臨床心理プログラムが第2種大学院に指定されました。

(財)日本臨床心理士資格認定協会による指定大学院(第2種)となりました。平成14年度修士全科生入学から遡って適用されます。

放送大学「情報リテラシー教育」実施のお知らせ

放送大学では、本学の学生を対象にコンピュータの利用方法を入学後の早い時期に習得できるよう、平成15年度第1学期から、「情報リテラシー教育」を実施しています。

この講習は主に、パーソナル・コンピュータを利用するのが初めての方、あるいはこれから利用してみたい方等を対象に実施するもので、受講による単位修得はありません。第2学期の実施日時や受付方法等の詳細については、実施する学習センターの掲示およびキャンパス・ネットワークにより、9月頃にお知らせする予定です。

○概要は次のとおりですので、興味のある方は是非ご参加ください。

1 実施予定学習センター	・埼玉学習センター	・千葉学習センター	・東京世田谷学習センター
	・東京文京学習センター	・東京足立学習センター	・東京多摩学習センター
	・神奈川学習センター		
2 講習内容	コンピュータの利用	ワープロソフトの操作方法	ファイル操作 インターネット 電子メール等
3 講習時間	10:00～17:55(面接授業の、 、 時限に相当)		
4 受講申し込みについて	受講したい学習センターで講習料2,000円を添えてお申し込みください。		

(注) 講義時間、申込方法等については学習センターによって異なる場合があります。

編集後記

日本では、卒業式、入学式、入社式、始業式、終業式、成人式など、何かの始まりや終わりのケジメには式があつて当然という感覚がある。ところが、私の知っているアメリカの小学校では始業式も終業式もなかった。また、日本では卒業式は厳粛なものとされていることが多いが、私の知っているアメリカの大学の卒業式では、名前を呼ばれて起立した卒業生に向かって家族や友達が大声でエールを送っていた。偶々私が知っている大学がこのような形を取っていただけかもしれないが、周囲に支えてもらってこそその卒業であることを考えればこういう卒業式もなかなか素敵だと思う。日米比較の常套句の一つとして、日本人は型を好み、アメリカ人は形式張ったことを嫌うと言われるが、少なくとも式に関しては納得してしまう。

(大橋理枝)

大学通信編集委員会

(平成15年度)

委員長	教授 阿部 齊
副委員長	同 徳丸吉彦
委員	同 香山壽夫
〃	助教授 山岡龍一
〃	同 坂井素思
〃	同 大橋理枝

(編集事務担当)

教務部修学指導課)



放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp/hp>
ISSN 1343-3369

R100